

シリーズで紹介している市の歴史まちづくり計画の事業概要。今月号では「歴史的町並みの周辺環境の整備」「景観の保全」について紹介します。

■問い合わせ 歴史まちづくり課 (020-2557)

周辺環境の整備

①道路の美化と無電柱化

(H24~31)

高梁地区の市街地は、備中松山藩の城下町として発展してきた江戸時代の町割りや通りなど



無電柱化を計画している本町通りの現況(上)と完成イメージ(下)

が多く残っています。特に、本町通りは松山往來の入り口として、また紺屋川通りは天然の外堀で「城内」と「城外」の境として、ともに歴史的な町並みや歴史的風致建造物が色濃く残る通りです。



昭和2年当時の県立高梁中学校(現高梁高校)と御殿坂



現在の御殿坂

こうした歴史的町並みの中で、都市環境として整備された電柱が歴史的建造物からなる景観を阻害したり、アスファルト舗装が周辺の景観にそぐわないところもあります。

先人から受け継いできたかけがえない地域の財産をまちづくりに生かし、また良好な景観は市民共有の財産であるという認識のもと、歴史的な景観に配慮した道路の美化や無電柱化を行い、歴史的町並みの保全を図るとともに、都市景観の向上や安全で快適な道路空間を確保します(図①②参照)。

③吹屋往來の景観整備

(H27)

吹屋往來は、かつて備中・備後産の鉄や銅の鉱石、ベンガラなどの運搬に利用されていた歴史的な街道ですが、現在、一部の区間で荒廃しつつあります。

路面の修復整備や案内看板を設置し、吹屋地区の下町と下谷を結ぶ遊歩道として活用を図ります(図③参照)。



現在の吹屋往來

④備中松山城登城道整備

(H22~23)

備中松山城は根小屋式城郭であり、麓にある御根小屋(現県立高梁高校)に日常の政務を行う政庁を置き、山頂の城と行き来していました。



臥牛山山頂にそびえる備中松山城(上)と登城道(下)

当時の登城道を整備し、復活させることにより、城山一体を歴史的遺産として見るとともに、登城者がより安全に歩行できるようにします。

⑤案内・説明看板の設置

(H22~27)

高梁地区、吹屋地区では、国・県・市など指定文化財の指定主体が異なること、また設置時期の違いなどにより、案内・説明看板、文化財や歴史的人物に関する標柱等の統一性がなく、老朽化が目立つもの



分かりにくい案内看板

景観の保全

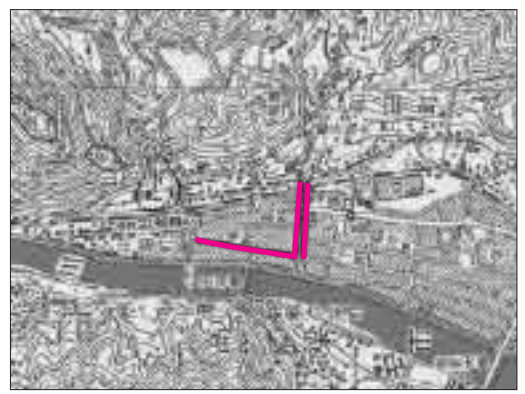
①景観計画の策定

(H23~25)

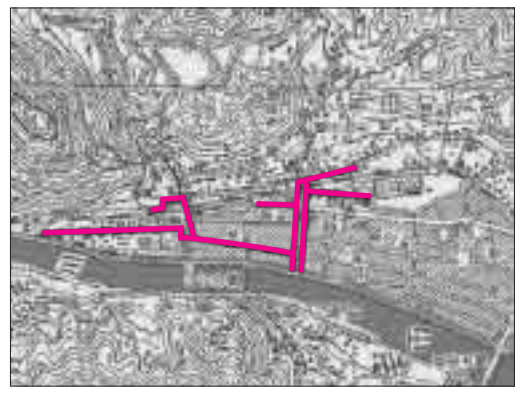
良好な景観は市民共有の財産であるという意識の向上に取り組みます。また、歴史的な景観を阻害することのないよう、高梁の城下町や吹屋の伝統的建造物群保存地区を中心に、市全域を対象とした景観計画を策定し、歴史的な町並みと自然が一体となった良好な景観の保全を図ります。

景観計画の策定に当たっては、市民アンケートや説明会、景観セミナーなどを行い、市民と行政が一体となったまちづくりを進めます。

図① 高梁地区・無電柱化事業位置図



図② 高梁地区・道路美化事業位置図



図③ 吹屋往來景観整備事業位置図



【お詫びと訂正】2月号9ページに誤りがありました。お詫びして訂正します。「備中神樂が奉納される神社」表中、愛宕神社(成羽町下原)の奉納日(誤)8月最終土曜日→(正)7月最終土曜日